

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 7 部門第 2 区分
【発行日】平成22年7月15日(2010.7.15)

【公開番号】特開2008-311356(P2008-311356A)
【公開日】平成20年12月25日(2008.12.25)
【年通号数】公開・登録公報2008-051
【出願番号】特願2007-156490(P2007-156490)
【国際特許分類】

H 0 5 K 3/20 (2006.01)

B 4 4 C 1/165 (2006.01)

【F I】

H 0 5 K 3/20 A

B 4 4 C 1/165 A

【手続補正書】

【提出日】平成22年5月31日(2010.5.31)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

基体の表面に機能性パターンを含む積層体を転写し、焼成することにより、機能性パターンの焼成体を形成するために用いる、焼成用転写フィルムにおいて、

前記焼成用転写フィルムは、剥離フィルムと、前記剥離フィルム的一方の表面に接するように形成された前記積層体とを含み、

前記積層体はさらに、機能性パターンと、前記機能性パターンの表面に直接接するように形成される、1層またはそれより多数の層からなる接触層とを含み、

前記機能性パターンは、無機粉体と焼成により除去可能な有機物とを含有し、

前記接触層は、焼成により除去可能な有機物と溶媒とを含有し、

前記機能性パターンに含まれる有機物は、前記接触層に含まれる溶媒と相溶しないことを特徴とする焼成用転写フィルム。

【請求項 2】

前記機能性パターンに含まれる有機物の溶解性パラメーター (SPb) と前記接触層に含まれる溶媒の溶解性パラメーター (SP) とが、 $5 < |SP - SPb|$ の関係を満たすことを特徴とする請求項 1 に記載の焼成用転写フィルム。

【請求項 3】

前記接触層は、前記積層体を前記基体に転写する際に前記基体の表面に粘着される粘着層であることを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の焼成用転写フィルム。

【請求項 4】

前記積層体は、前記積層体を前記基体に転写する際に前記基体の表面に粘着される粘着層をさらに含み、

前記接触層は、前記機能性パターンと前記粘着層との間に挟まれる中間層であることを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の焼成用転写フィルム。

【請求項 5】

前記接触層のうちの 1 層は、前記機能性パターンの、前記剥離フィルムの前記一方の表面に間接的に接する表面を保護するための保護層であることを特徴とする請求項 1 ～ 4 のいずれか 1 項に記載の焼成用転写フィルム。

【請求項 6】

請求項 1 ～ 5 のいずれか 1 項記載の焼成用転写フィルムが形成されたことを特徴とするガラス物品。